

施策マネジメントシート

基本施策名	10 高齢期の充実した生活への支援	施策統括課	高齢者支援課	氏名	馬場一嘉
政策名	4 保健・福祉	主な関係課	地域包括ケア推進担当、健康づくり担当、福祉総務課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 65才以上の市民(高齢者)

施策の目的 高齢者が生きがいを持ち、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるように環境を整えとともに、病気や認知症になっても住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせるまちを目指す。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	名称	単位
ア	65才以上人口	人
イ		
ウ		
エ		

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	名称	単位
1	ア 75歳以上の要介護認定率	%
	イ 自主活動グループ数(活動場所)	箇所
2	ア 高齢者の就労率	%
	イ 高齢者の社会参加率	%
	ウ 孤立化のリスクが高い高齢者の割合	%
3	ア 高齢者からの新規相談対応件数	件
	イ 市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合	%
4	ア 要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合	%
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2~令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 介護予防と生きがい活動の推進	高齢者が自らの健康管理に努め、予防的な観点を生活に取り入れながら、いきいきと暮らせるように支援します。	元気な高齢者も対象とした生きがい活動ともなる事業を中心に、介護予防事業を推進します。 高齢期の生活や健康の保持について学びあうことができる環境を整えます。 高齢者のサロン活動や生きがい就労を支援します。 高齢者自らが主体となった介護予防活動を推進し、フレイル(虚弱)を防止します。 地域の集いの場の創出を支援し、高齢者の社会参加を促します。
2 高齢者の支え合い体制の構築	高齢者の孤立を防止し、社会参加を通じて、つながりのある支え合い体制を構築します。	高齢者の見守り活動等により、元気な高齢者が、周り的高齢者を支える仕組みづくりを推進します。 生活支援の基盤としてのシルバー人材センターとの連携を強化します。
3 安心して暮らせる生活基盤の充実	高齢者やその家族が安心して生活できるよう支援します。	生活、介護、医療等の相談を総合的に受け、きちんと支援につながるようきめ細やかに対応します。 高齢者の生活に関わる意思決定を本人が行えるよう支援します。
4 高齢者の在宅療養生活の充実	加齢に伴い、病気や認知症になっても、安心して地域で暮らせるようにします。	医療と介護、保健が連携した在宅療養の支援体制を整備します。 認知症の特徴や認知症の方への対応などについて市民へ周知・啓発を行うとともに、地域を巻き込んで日常生活を支える取り組みを進めます。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

単位		数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度	目標達成度		
対象指標	ア	人	見込み値 実績値	16,887 17,190	17,437	17,756	17,938 18,008	18,135	18,289	18,569	19,777	目標達成度		
	イ		見込み値 実績値									達成・ 未達成	前年度 比較	
	ウ		見込み値 実績値											
	エ		見込み値 実績値											
基本計画における 指標の説明又は出典元														
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値								未達成	低下	
				目標値	32.5	32.1	31.7	31.3	30.9	30.5	30.1			29.7
				実績値	33.2	33.4	34.0	34.4	35.1%					
	基本計画における 指標の説明又は出典元				75歳以上の要支援・要介護認定者数 / 75歳以上高齢者数									
	イ	箇所	成り行き値										達成	向上
			目標値	55	77	80	123	124	125	126	127	131		
			実績値	74	108	122	113	124						
	基本計画における 指標の説明又は出典元				市が把握する高齢者の自主活動グループ数									
	ア	%	成り行き値											
			目標値				26.0			26.0				
			実績値	21.3	-	-	15.0	-	-					
	基本計画における 指標の説明又は出典元				日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(収入のある就労者 / 調査回答者数)									
	イ	%	成り行き値											
			目標値				12.6			17.6				
			実績値	18.1	-	-	20.9	-	-					
	基本計画における 指標の説明又は出典元				日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(見守り支援活動参加者数 / 調査回答者数)									
ウ	%	成り行き値												
		目標値	6.3			6.0			5.5					
		実績値	15.9	-	-	6.2	-	-						
基本計画における 指標の説明又は出典元				日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(閉じこもりリスクのある高齢者数 / 調査回答者数)										
ア	件	成り行き値										達成	向上	
		目標値	3,445	3,455	3,465	3,475	3,485	3,490	3,495	3,500	3,520			
		実績値	3,699	3,963	3,987	3,815	4,732							
基本計画における 指標の説明又は出典元				高齢者からの新規相談対応件数										
イ	%	成り行き値										未達成	向上	
		目標値		30.8	36.4	42.0	47.5	53.1	58.7	64.3				
		実績値	25.3	23.1	25.5	26.5	26.7							
基本計画における 指標の説明又は出典元				国立市市民意識調査										
ア	%	成り行き値										達成	向上	
		目標値	80.9	81.3	81.7	82.0	82.2	82.4	82.6	82.7	83.1			
		実績値	79.5	86.1	87.6%	87.7%	87.9%							
基本計画における 指標の説明又は出典元				施設未利用の要介護認定被保険者数 / 要介護認定被保険者数										
イ		成り行き値												
		目標値												
		実績値												
基本計画における 指標の説明又は出典元														
事務事業数		本数												
施策コスト	財源内訳	国庫支出金	千円											
		都道府県支出金	千円											
		地方債	千円											
		その他	千円											
		一般財源	千円											
		事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	延べ業務時間	時間											
	人件費計(B)	千円												
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成) ~ E(ほぼ未達成)

C:一部の成果指標について目標を達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)

C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

展開方向1のア、75歳以上の要介護認定率以外ではある程度目標を達成している指標があるが、この目標が達成されていない理由として、85歳以上の高齢者割合が増加していることが考えられる。
(R2年3月末85歳以上被保険者3,065人、認定者1,909人、認定率62.28%。R3年3月末85歳以上被保険者3,259人、認定者2,022人、認定率62.04%。)

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

・2025年には団塊の世代が75才以上となり、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となる(国)。今後、高齢化が進むと医療と介護を必要とする方がますます増加していくが、現在の医療・介護サービスの提供体制のままでは十分対応できないと見込まれている。

・2025年を目途に、病気になっても要介護状態になっても住み慣れた地域で生活が送れるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく必要がある。

・地域包括ケアシステムを具体化していくための3年に一度の介護保険法改正が令和3年度に実施されている。

・3年に一度の介護保険法改正に関連し、第8期介護保険事業計画を令和3年度からの3カ年計画として策定したが、同計画の進捗状況に応じた評価を行い、PDCAサイクルを実施する法改正が施行されている。

・「認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会」の実現を目指していく。

・地域包括ケアシステムの構築をさらに推し進めるため、社会情勢の変化に対応した高齢者支援施策の模索が必要とされ、いくつかの事業についてさらなる見直しに取り組んでいる。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・住民からは「今後自分たちに介護が必要となってきたときに、安心して生活できるのか」「認知症になったらどうすればいいのか」という不安の声が寄せられている。

・介護施設と地域の拠点が一本化された運営をしてほしい。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

・地域包括ケアシステムの構築に関しては、直営の地域包括支援センターを中心とした取り組みにより、他市に対して先進性を保っている。

(4) 施策の具体的な取組状況

2年度の取組状況	3年度の取組予定
<p>・第8期介護保険事業計画と第6次高齢者保健福祉計画を一体のものとした地域包括ケア計画を策定した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮した介護予防事業を実施した。</p> <p>・市内介護保険事業所に対し、新型コロナウイルス感染症への対策について支援した。</p>	<p>・介護保険事業計画のPDCAサイクルを引き続き実施する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に対応した更なる取り組みを検討する。</p>

6 2年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

展開方向

1. 介護予防と生きがい活動の推進.....フレイル予防の着実な展開により自主活動グループも増加している。
2. 高齢者の支え合い体制の構築.....見守りネットワーク事業などに取り組み見守り活動参加率が増加している。
3. 安心して暮らせる生活基盤の充実.....地域包括支援センターにおける医療介護連携の取り組みなどにより、総合的な相談支援体制が充実しつつある。
4. 高齢者の在宅療養生活の充実.....医療と介護が連携した在宅療養の支援体制の整備が進み、在宅で過ごす人の割合が増加している。

○改善余地のある事項・課題等

展開方向

1. 介護予防と生きがい活動の推進.....介護予防と保健事業の一体的実施により更なる健康寿命の延伸への取組。
3. 安心して暮らせる生活基盤の充実.....地域包括支援センター地域窓口の機能強化と他部門との連携強化による重層的支援体制整備事業への取組。
4. 高齢者の在宅療養生活の充実.....認知症支援策の充実。

(2) 施策の2年度における総合評価

B

成果実績数値の評価(A~E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価

A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。

B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。

C:成果向上のため、一層の努力が求められる。

D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。

E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 4年度の取組方針

展開方向

1. 介護予防と保健事業の一体的取り組みの実施
3. 重層的支援体制整備事業への取り組み

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

「2025年問題」と言われる令和7年を念頭に、住民主体の生活支援体制の実現、介護予防と保健事業の一体的実施、地域共生社会実現に資する重層的支援体制の整備に取り組むことで「地域包括ケアシステム」の構築を推進する。